

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	マグネシウム(粉末)(40メッシュ)
製品コード	N5-14
整理番号	N5-14-4
供給者の会社名称	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	試薬化成品本部 企画グループ
電話番号	06-6910-7305
E-mail	shiyaku_kikaku@ml.hpc-j.co.jp
URL	http://www.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	06-6910-7305

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	可燃性固体 区分外 水反応可燃性化学品 区分2 金属腐食性物質 区分外
健康有害性	皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A
環境有害性	特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性) 水生環境有害性(長期間) 区分4 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

H261 水に触れると可燃性又は引火性ガスを発生

H315 皮膚刺激

H319 強い眼刺激

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H413 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

注意書き

安全対策

水と接触させないこと。(P223)

湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱うこと。(P231+P232)

粉じん、フェュームの吸入を避けること。(P261)

取扱い後はよく手と眼を洗うこと。(P264)

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

環境への放出を避けること。(P273)

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
(P305+P351+P338)

気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

特別な処置が必要である。(P321)

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)

固着していない粒子を皮膚から払いのけ、冷たい水に浸し、湿った包帯で覆うこと。(P335+P334)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)

火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

乾燥した場所又は密閉容器に保管すること。(P402+P404)

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
マグネシウム	98%以上	Mg	対象外 (元素)		7439-95-4

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を多量の水と石鹸で洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに多量の水を飲ませる。

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

金属用粉末消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤

水噴霧、二酸化炭素、泡消火薬剤

特有の危険有害性

火災時に刺激性もしくは有毒なフェームまたはガスを発生する。

摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。

特有の消火方法

容器内に水を入れてはいけない。

周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。

着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外は近づけない。
立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

封じ込め及び浄化方法及び機材

漏出物は、粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
長時間または反復のばく露を避ける。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にします。

作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にします。

取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の実施のある場所で取り扱う。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

火気注意。

激しい反応と火災の発生の危険があるため、水と接触させないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

飲み込みを避けること。

環境への放出を避けること。

眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

施錠して保管すること。

乾燥した場所又は密閉容器に保管すること。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

安全な容器包装材料

気密容器

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
マグネシウム	設定されていない		

設備対策

取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具

防塵マスク、自給式呼吸器(火災時)

手の保護具

保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態	固体
形状	粉末
色	銀白色～灰色
臭い	情報なし
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	1110°C
引火点	データなし
蒸発速度	情報なし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	情報なし
比重(密度)	1.7g/cm ³ (20°C)
溶解度	水に不溶。酸に可溶、アルカリに不溶。
自然発火温度	473°C
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性	酸化剤や他の多くの物質と反応する。酸、湿気や水と反応して可燃性/引火性で爆発性の水素ガスを生成し、火災や爆発の危険をもたらす。加熱すると分解し、有毒で腐食性のフュームを生じる。
避けるべき条件	日光、熱、湿気、水。酸化剤、酸、塩基、ふっ素、ハロゲン化物との接触。
混触危険物質	水、酸化剤、酸、塩基、ふっ素、ハロゲン化物
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS (1999) およびSITTIG (4th, 2002) の皮膚を刺激するとの記述から、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS (1999) およびSITTIG (4th, 2002) の眼を刺激するとの記述から、区分2Aとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS (1999) およびSITTIG (4th, 2002) の呼吸器、肺または気道を刺激するとの記述から、気道刺激性があると判断し、区分3とした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(長期間)	L(E)C ₅₀ ≤ 100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため、区分4とした。
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	1418
Proper Shipping Name	MAGNESIUM POWDER

Class	4.3
Sub Risk	4.2
Packing Group	II
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	1418
Proper Shipping Name	MAGNESIUM POWDER
Class	4.3
Sub Risk	4.2
Packing Group	II
国内規制	
陸上規制	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1418
品名	マグネシウム粉末
国連分類	4.3
副次危険	4.2
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1418
品名	マグネシウム粉末
国連分類	4.3
副次危険	4.2
等級	II
特別安全対策	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。
緊急時応急措置指針番号	138
15. 適用法令	
労働安全衛生法	危険物・発火性の物(施行令別表第1第2号)
消防法	非危険物
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の2項
船舶安全法	可燃性物質類・水反応可燃性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	可燃性物質類・水反応可燃性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	その他の危険物・可燃性物質類(水反応可燃性物質)(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
水道法	有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
16. その他の情報	
参考文献	国際化学物質安全性カード(ICSC) 16918の化学商品(化学工業日報社) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH

その他

当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。

現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。